

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■全体

意見（要約）

①

広報に「効果的な人口減少対策を進めてきた」と記されていますが、科学的に「効果的」と判断するに至ったデータがどれかわかりませんでした。高齢化する人数はおよそ予測されるため、高齢化率を抑えるためには、出生数を上げること、年少人口、生産年齢人口の数を上げることしかありませんが（高齢化する人を少なくすることはできないはずですが）、これらに対して何が効果的であったのか、優先順位をつけて示していただきたいです。

回 答

①

仰るとおり、出生、年少人口、生産年齢人口を増やすことが、人口減少、少子化対策の成果であると考えます。本町におきましては、住宅地として発展してきた特性や子育て世帯が安全に、安心して暮らすことのできる環境が整っていることを鑑み、これまで以上に子育て世帯に選ばれるまちづくり、子どもを産み、育てやすいまちづくりを目指し、4つの基本目標のうち、基本目標①「教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支援する」をもとに、教育・子育てを中心に取り組みを進めてまいりました。

そのなかで、出生については、基準値（平成26年度実績）が97人でしたが、直近（平成30年度実績）では118人となっており、総合戦略に位置づけた様々な施策展開が効果を発揮し、一定の成果を得られたのではないかと考えております。一方でご指摘にありますとおり、年少人口、生産年齢人口については依然として減少傾向にあります。特に地域を支える生産年齢人口の減少については、今後さらに深刻な影響を及ぼす課題になると捉えるところであり、今回の改訂では、地域を支える担い手の確保の手段として、あるいは移住の前段階の手段として、若者世代や子育て世帯を中心に町外のかたに上牧町の認知・関心を高める取組を新たに取り組み内容を追加しております。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■全体

意見（要約）

②

「SDGsとは先進国を含む国際社会全体の開発目標」であって、このテーマを基準とするのは論点がずれているように感じます。あくまで参考として、上牧町における人口問題については、別の視点で具体的な施策を検討していただきたいです。

回 答

②

SDGsの推進については、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、さらに地方創生を深化させていくために、持続可能な開発目標の達成に向けた取組を推進するとともに、SDGsの主流化を図り、経済・社会・環境の統合的向上等の要素を最大限反映することとされているところでございます。

本町の総合戦略におきましても、地域で安全・安心に住み続けられるまちづくりを目指す趣旨を含むもので、SDGsが掲げる目標にも合致するものであり、各施策、取組内容を進めるにあたり、持続可能な循環型社会の実現や、「誰一人取り残さない」という理念の浸透を意識して取り組んでいきたいと考えております。

ただし、総合戦略の具体的な内容については、ご指摘にもありますとおり、人口減少・少子高齢化対策として、いかに効果的であるかという点を主眼に検討するべきであるという認識を持っております。本町の総合戦略の改訂にあたっては、SDGsの観点にのみとらわれることなく、これまでの取組内容、成果、社会情勢などを踏まえて、人口減少に効果的な施策、取組内容、全体的な構成について内部組織、検証委員会で検討を進めてきたものでございます。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■総合戦略

意見（要約）

③

2ページの24の施策についてですが、本来の目的に即しているか、時々において検証する部門を創設してはどうでしょうか。自己評価や検証委員会における検証では適切な判断ができないように感じます。

④

3ページの評価における評価区分においては「目標値」のおき方で評価は大きく変わるように感じます。4ページ以降その詳細を記されていますが、その目標値が本来の目的に科学的に合致した数値となっているか検証が必要であると感じます。

回 答

③

総合戦略の検証については、現状、担当課での自己評価、内部検証組織での検証、産官学金労言に町民を加えた外部検証組織において行っております。また、交付金事業をはじめ、必要に応じて個別検証の実施や議会に報告し意見を求めているものもあり、各検証を通じて得た助言をもとに、適切な見直しを図りながら取組を進められているものと考えております。

ご提案いただいている内容にもありますとおり、今後も既存の検証体制だけにとらわれず、必要な検証や利害関係者を交えた会議等を実施していく予定でございます。

④

総合戦略は、基本目標の実現を通じて人口目標の達成を目指すものであり、本町の総合戦略については、基本目標の実現に向け、施策の下にさらに具体的な取組内容まで設定しているものとなっております。そのなかで、各取組内容がきちんと実施、推進されているのか、円滑に進行管理を進めていくために、成果、達成度の判断材料として、重要業績評価指標(KPI)を設定しているものでございます。

このたび、総合戦略の改訂にあたり、KPIとその目標値の再設定を行っており、内部でも検証委員会でもKPI、目標値の妥当性については十分に議論を尽くしてきたところでございますが、ご指摘にあります人口目標の達成と科学的な根拠に照らした検証にまでは至っておりません。

しかし、今後、より精度の高い検証の実施、総合戦略の推進という観点から見ますと、ご指摘の視点も必要な要素であると考えますので、今後の進行管理におきまして、いただきましたご意見を参考に、そうした視点を新たに盛り込むことも視野に入れながら、より適切かつ効果的な検証にしていきたいと考えます。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■総合戦略

意見（要約）

⑤

8ページ目においては40年後の人口を示されていますが現実味がありません。例えば3年後ごとの目標人口(割合)を決め、そのために今何をするのか、その評価はどの数値を用いるのか、どの組織のどなたが責任をもって評価するのか、対策が効果的であれば拡充し、なければ中止することができる仕組みを検討してほしいです。ターゲットとする人が集まる仕組み(イベント・大学など教育施設・職場)が必要です。程度問題ですが、そのリスクも踏まえルールを明確にしたうえで投資をし、実践して、全国、世界にも広報して行く必要があると感じました。

回 答

⑤

人口の将来展望における中間目標につきましては、人口ビジョン(素案)26ページにおきまして、5年ごとの目標値をお示ししておりますのでご参照ください。評価主体につきましては「上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会」で行っていくこととしており、人口動態の検証につきましても、今回同様、総合戦略の計画期間最終年度における見直しにあわせて行うことを想定しております。

また、総合戦略については、各取組内容ごとに評価シートを作成し、それをもとに毎年度評価を行っておりますが、当該評価シートにつきましては、ご指摘の内容であります「効果的な取組の拡充」、または「効果が見込めない取組の中止」等に関する検討も含めて検証できる内容になっております。

この点につきましては、情報共有を図る観点からも、今後よりわかりやすい検証にしていく必要があると考えますので、評価シートの改良など創意工夫を図っていきます。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■総合戦略

意見（要約）

⑥

まきっ子塾に関して…主婦もしくは6時のお迎えに間に合う学童利用者しか参加出来ない現状。(学童が延長になればそれに伴い利用可能になる人もいるが、それまでは参加したくても不可能であった)曜日の検討を含め、すべての希望する子どもたちが平等に利用できる施策をお願いします。

⑦

子どもサロンに関して…長期休暇中に行われるかと思いますが、実施が平日のみのため、主婦もしくは平日休みの親しか参加出来ない。毎回平日の実施ではなく、平日もあり土日もありなど、どのような家庭でも参加出来るような曜日設定でのご配慮をお願いします。すべての希望する子どもたちが平等に利用できる施策をお願いします。

『子育て世帯の多様化するライフスタイル(暮らし方、働き方等)に合わせた様々な支援を実施するとともに、地域と行政の協働による教育・子育て体制を整え…』とありますが、にもかかわらず、前述のとおりそのような支援だとは思えない現状です。

回 答

⑥

まきっ子塾に関しては、より多くの児童に参加していただける事業にしていきたいと考えておりますが、事業の実施にあたりましては、ご承知のとおり、参加する児童の安全面を確保するという観点から、保護者のお迎えを必須条件にしておりますので、よろしくご理解ください。

⑦

子どもサロンについては、つどいの広場及びおひさま広場と認識して回答させていただきます。つどいの広場、おひさま広場については、少子化の進行に伴い、参加者数も年々減少傾向にあります。今後、利用者向けのアンケートの実施を予定しておりますので、ニーズを把握しながらよりよい事業にしていきたいと考えております。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■総合戦略

意見（要約）

⑧

『雇用環境の乏しい本町では、特に若者世帯を中心とした住民に対して、勤務地や就労の形態に寄らず、本町に住みながら働ける環境づくりが求められています。』とありますが、学童に関して、勤務地が少しでも上牧町より離れると、長期休暇中の朝8時からの保育では勤務時間に間に合いません。通常保育時の夜6時もお迎えが間に合いません。掲げていらっしゃる環境作りの早期実現を望みます。

回 答

⑧

学童保育については、利用者ニーズを勘案しながら支援の幅を広げられるよう努めているところで、本町の特性上、雇用環境が乏しいため、町外に勤務しながらでも本町で安心して子育てできる環境を整えていきたいと考えているところであり、その中でも学童保育や延長保育の果たす役割は非常に大きいと認識しております。

学童保育所では、令和2年4月から開所時間を午後7時まで1時間延長するとともに、学童保育料につきましても改定を行い、これまでの早朝料金500円の撤廃及び30分ごとに500円の保育料加算を1時間ごとに変更し、利用者負担の軽減を図ります。また、私設の学童保育所「元気クラブ」につきましても、令和2年4月より行政から補助を行うなど、学童保育料の軽減を図っているところでございます。

その他、多様な働き方の実現を目指したテレワークやリモートワークの普及・推進とあわせて、今後も子育て世帯が暮らしやすいまちづくりに努めてまいります。

上牧町人口ビジョン及び上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの回答

■総合戦略

意見（要約）

⑨

21ページ『◎子育てしながら安心して働ける環境の整備 略 共働きする子育て世帯への支援の充実や環境を整えることで、良好なワーク・ライフ・バランス(※10)の推進を図ります。』とありますが、前述のとおり、基本目標1にも関係しますが、支援が充実し環境が整っていると思える現状ではございません。

⑩

また平日5時15分までの受付の書類など(直近では医療費受給資格者証の提出など)、土日の受付を検討いただきたいです。主婦や平日休みの方は問題ないと思いますが、他はそのために休暇を取得しなければなりません。当事者は毎回負担に思い、掲げていらっしゃる共働きする子育て世帯への支援の充実や環境を整えるという文言に、些細なことかもしれませんがそうになっているとは思えない現状です。

回 答

⑨

本町においては、人口減少とあわせて、少子高齢化の傾向も年々顕著になっている現状であり、その原因のひとつに、若者世代の社会減が挙げられます。そうした現状に歯止めをかけるため、本町としては、子育てしながら安心して働くことのできる支援の充実を図っていきたいと考えており、上牧第一保育所では標準時間より30分の延長保育をすでに実施しているところでございます。

また、お子さまの病時病後時にお預かりする病児病後児保育室につきましては、平成27年から近隣9市町により共同実施しております「ぞうさんのおうち」(大和高田市)に加えて、本年1月に西和医療センター敷地内に「いちごルーム」(5町で連携協約)を開設するなど、子育て世帯のより一層の利便性向上を目指し、サービスの充実を図っているところでございます。

その他、学童保育所では、令和2年4月から開所時間を午後7時までとする延長や学童保育料の早期料金500円の撤廃、保育料加算の変更、私設の学童保育所「元気クラブ」への補助を通じて学童保育料の軽減を図るなど取組を進めており、今後も引き続き、子育て環境の拡充に取り組むことで、若い世代、子育て世帯にも選ばれるまちづくりの推進に努めてまいります。

☑

⑩

行政サービスについては、各種証明書(住民票・印鑑証明書)のコンビニ交付が実現したように、今後マイナンバーを活用したデジタル手続きの多様ななどが想定されているところであります。

現時点におきまして、休日窓口の開設について具体的な検討はされておりませんが、今後もそうした住民の皆さまのニーズに沿った行政サービスの提供を実現できるよう、様々な観点から取り組みを進め、利便性の向上に努めてまいります。